

2014年度予算要求 (その③)

2014年度予算要求の項目を3回にわたってお知らせしました。このほかにも皆さんの要求をお寄せください。

7. 農業を守り発展させるために
- ①食料自給率向上のため、地元農産物の積極的な消費拡大策を講じること。
 - ②学校給食で地元食材の利用品目・率を高め、数値で表し、地産地消をさらに進めること。
 - ③保育所・病院等、公共施設の給食で地産地消をはかること。
 - ④市役所、総合福祉センターなど公共施設の食堂での、地産地消を勧めること。
 - ⑤農業継承のために、後継者支援を行うこと。また、相続税の見直しを行うよう国に要望すること。
 - ⑥国に対してTPP（環太平洋連携協定）に参加しないよう求めること。

9. 国際平和・非核宣言都市としての事業推進を
- ①平和の尊さを広く市民に知らせるため、8月を中心にした平和月間を設けること。引き続き展示・イベント等を行うこと。企画段階から市民のかかわりを持ち、より多くの市民が参加できるよう改善に努めること。
 - ②市民の平和活動に、行政も積極的に参加・支援すること。
 - ③厚木市の国際平和・非核宣言について、厚木中央公園や公共施設だけでなく、広く市民および来厚者に知ってもらうために、駅周辺や行政区境に宣言塔を設置すること。
 - ④平和市長会議に加盟している自治体としてのアピールを行い、国に対して憲法第9条を守るよう強く働きかけること。
 - ⑤米軍厚木基地へオスプレイの配備をしないよう、関係自治体と協力し、国に働きかけること。

8. 市民本位の行財政改革を進め、市民に開かれた市政を

- ①財政支出は、市民要望を尊重し、地域活性化に役立つ生活・福祉重視で行うこと。
- ②事務事業の評価については、事業に精通した委員の外部評価を受けるとともに、担当の所管が実態を把握したうえで事業評価をすること。
- ③職員の不祥事については、発生を未然に防ぐための綱紀粛正と、事務執行体制の改善を図ること。また、早期の解決、公表を行うこと。
- ④「全体の奉仕者」としての職員研修を充実させ、職員一人一人が、市民の声をよく聞いて対応できるようさらなる意識改革に努めること。
- ⑤定数管理計画の見直しを行い、市民サービス向上のため業務実態に合わせた人員を確保すること。安易な非正規雇用をしないこと。
- ⑥メンタルヘルスをはじめとする職員の健康管理の充実を図ること。
- ⑦市の公共施設はできるだけ市の直営で管理運営を行い、不安定雇用や官製ワーキングプアを助長するような指定管理者制度や業務委託については見直しをすること。

- ⑧市民活動のより一層の活性化を図るため、公民館等の利用については現行のままとすること。また、地域住民が優先的に利用できるよう対策を早急に実施すること。
- ⑨公共施設再編については、市民の意見を広く聴き、十分な理解と納得の上で進めること。

2014年1月④ 487号 (2面)

「原発に頼らない安心できる社会へ」講演会



政府も科学者もマスコミも、原発事故の後、正確な報道をしない。事故を起こした責任を誰もとらない。こんなことは企業倫理にとっても

1月23日(金)、厚木市文化会館で「原発に頼らない安心できる社会へ」の講演会が開催されました。講師は城南信用金庫理事長の吉原毅さん。主催は「なくそう原発あつぎの会」です。冒頭、吉原さんは「なぜ、一金融機関がこのような原発問題に取り組むのか」と切り出しました。福島原発の事故で、今の社会がどうなっているかについて大きく目を開かせてもらった。企業としてこのような問題が起きた時に見えぬふりをするのか、企業に誇りと良心と理想があるならばこれに対して前向きに、積極的に立ち向かう必要がある、と感じた。企業社会の在り方の根幹にかかわる問題である。

のだ。企業経営にとって極めて異常だ。原発マネーが政治家、研究者に大量に回り、マスコミは広告料でがんじがらめに縛られてものが言えない状態だ。現在、原発は一基も稼働していないのに、電力不足は発生していない。国民の節電努力や自然エネルギーの活用で多様な方法で発電がされており、原発に頼らなくても日本社会は十分やっていける。

原爆推進者への反論も明快です。「化石燃料（石油や石炭、天然ガスなど）は有限だ。原発がなければ心配だ」という人がいる。しかし、原発原料のウランそのものが有限である。新たな石炭や石油が掘り出されていることと合わせて、技術の進歩で効率よく使えるようになったので、さらに何百年も使えるようになってきた。

理論的な話には大きな拍手が沸き起こりました。歯に衣着せぬ内容で一気に喝成に話しました。

参加者が「原発に頼らない社会」の実現に大きな確信を持てた講演会でした。



この磁気ループは厚木市に2台あります。共産党議員団が一般質問で取り上げ、その後会議等で活用しています。磁気ループのアンプ

会場内にループを張り巡らし、その中で専用の補聴器を使えば、マイクの音だけが耳に入る仕組みです。「今までは、音が入っていただけで、ごちゃごちゃして内容がわからなかった。よく聞こえました」「初めて講演の内容を理解できました」と利用された方からは喜びの声が上がっています。

1月23日の講演会では磁気ループが使われました。耳の聞こえの不自由な方は、補聴器を使っていますが、補聴器は、聞きたい音だけでなく、雑音もすべてキャッチするので、大変聞きづらいのだそうです。人間の耳は、聞きたい音を選択して受け止めるので、多少の騒音の中でも聞き分けることができます。

話題あれこれ
磁気ループ大好評